

中国の祝日

芦田彩希

とうとう留学生活最後の月になりました。こちらにいと祝日を重んじていることが感じられます。外国語を学習するうえでも、その国の祝日を通じて文化を理解できるのでとても大事だと聞きました。今回は最後の連休中にあった祝日についてご報告します。

旧暦五月五日にあたる六月十二日は端午节 (Duanwujie) でした。中国では春秋戦国時代の政治家であり詩人でもある屈原を弔う命日とされている行事です。屈原は国を嘆いて最後は川に身を投げ、非業の死をとげるのですが、彼の死を嘆いた国民が彼の死体が川の魚に食べられないように、川にチマキをまいたのです。国と人民に尽くした屈原の政策は、死んだ後もいっそう人々に惜しまれ、多くのチマキを川に投げ入れて国の安泰を祈願する風習に変わっていったそうです。現在中国の端午節においてチマキを食べる習慣があるのはここから来ています。この時期には路上で、きれいな刺繍糸で編んだ五彩線 (ミサンガのようなもの) を売っています。これを身につけることで病を避けると言われています。端午節が過ぎた後最初に雨が降った日に人々は川に流して、屈原を弔うとともに今年の厄を落とすそうです。他にも端午节の慣わしは色々あります。香袋をつけたり、厄除け・魔除けをする意味で菖蒲 (しょうぶ) やヨモギ・ガジュマロの葉を門にかざります。また薬用酒や粽子 (チマキ) は健康増進を祈願する意味が込められています。

この日に初めて山西医科大学まで行きました。医科大学の学生たちは会うとすぐに祝日だからと五彩線をプレゼントしてくれ、お昼ご飯を食べていると、お店のサービスでチマキをいただきました。今回、私の友人と一緒に日本語を勉強している友人を連れてきてくれたのですが、日本の芸能人や歌手、映画などにとっても詳しく驚きました。知っている共通の話題があることで会話が盛り上がりましたが、私は中国の芸能人などには疎く、流行を知ることも語学を勉強する面では重要だと気づきました。

外国の方が日本について知っていることを話してくれると、うれしい反面、私自身日本について知らないことがたくさんあるとわかりました。相手の国の文化や、流行を知るとともに、自分の国のことももっと理解しようと思いました。

・山西医科大学の西門



・いただいた五彩線と扇子

